

.....今朝、来日中のジョージ・ギルター氏とめし食いました。先月末に閣議決定された規制緩和推進計画は、通信分野の参入促進や料金規制緩和、接続ルール策定など盛りたくさん。ギルターに感想を問うと、電話網の陳腐化やワイヤレスによるバイパスの可能性をしきりに強調していました。衛星デジタル放送の一  
次認定、電子取引の実験開始、暗号や認証をどうする。実態が速すぎて制度が追いつきません.....

# インターネット、 自由を我等に

中村伊知哉著

A S C I I a r c h i v e s  
*Iebyia Nakamura*  
002

## 詳細データ



書名	インターネット、自由を我等に
著者等	中村伊知哉著
シリーズ	ASCII archivesシリーズ
発売日	1996/07/26
形態	四六(144ページ)
付属品	
価格(税抜)	971円
ISBN	4-7561-1675-2
内容	いま、突破口はメディアしかない! --国境を越えて進むメディアのデジタル化、融合、買収……。郵政省での騒乱と交渉の現場に身を置く筆者が綴る、メディア新時代への熱き想い!

**ASCII**

Copyright © 2001 ASCII CORPORATION. All rights reserved.

# 『インターネット、自由を我等に』

中村伊知哉 著  
 (C)Ichiya Nakamura 1996

(著者プロフィール)

中村伊知哉 Ichiya Nakamura  
 [郵政省大臣官房総務課課長補佐]

1961年生まれ。京都市出身。京都大学経済学部卒。大学在学中は音楽活動に没頭、ロックバンド「少年ナイフ」のディレクターなどを務める。1984年、郵政省入省。電気通信局で通信自由化、ネットワーク化政策に従事した後、放送行政局でCATVや衛星ビジネスを担当。登別郵便局長を経て、通信政策局で地域情報化、マルチメディア政策を推進。1993年、パリに渡り、大陸メディア浪人。1995年7月から現職。趣味は“メディア”。

（目次）

はじめに

第一章 パリ・メディアノート

第二章 突破口はメディア

第三章 メディア・ロマン主義

おわりに



-->ascii archive home page

## はじめに

マルチメディアだという、インターネットだという、そして誰もその本性を知らない。

九年三月、マルチメディア・ブームが到来し、九四年に過熱し、九五年には実態が姿を現した。

九六年にはその行方が決定される。

筆者は学生の頃、少年ナイフという名のバンドで遊んでいた。マンガを読みあさり、映画にひかれ、テレビやラジオに漸かり、そういう自然な成り行きで、郵政省の役人になった。ちなみに少年ナイフは今、ローリングストーンズの後がまとめてマイクロソフトのCMに起用されている。

官僚としての私は、通信自由化前後からメディア政策の現場に身を置いて、漠然としたマルチメディア社会の実現を念じてきた。九三年の夏から二年間はパリに赴任し、かなたから日本を見つめる機会も得た。

だから、ネットワークの爆発はうれしい。しかし、喜ぶべきブームは唐突で激しすぎて、本質を冷静に見極めることができなくなっている。これは日本だけのことではない。欧米諸国も考えあぐねている。ここはメディアとヒトの将来を左右する分岐点だ。私もメディアへの気持ちを整理しておきたい。

本書は、こんな思いでパリ滞在中に書きためたメモの一部を構成したものだ。

第一章は、ここ三年間の間に私が知人に送ったメール集である。第二章では、メディアの動向をトレースし、コンテンツを中心でメディアが進むべき道を整理してみた。第三章は、映像・サイバー社会への思いをつづったものだ。

今、私は郵政省でゴールキーパーのような仕事をしているので、出版という露出にはためらいがあったが、「悪い奴ほどよく黙る」という知人の叱責を真に受け、決意した次第である。

## 第一章 パリ・メディアノート

——九三年～九五年のパリ滞在中に、そして帰国後九六年六月までに同僚や知人へあてて送付したメールより——

### 九三年一一月

……パリではホームレスの凍死者が相次ぐって話を早朝ラジオ番組で電話レポートしたところ、日本の知人がおおぜい聞いていて赤面。何年か前、登別郵便局長のオールナイト・ニッポンでの深夜にやったんですが、お年寄りからの反響が大きくて驚いたことが